

それから辻潤の友人の沼田と言ふ家へ一緒に行つた。

ビルマで貿易商を營んで居て、陽明主義の獨身の丸い男である。

支那人の臍へ齒磨粉を詰め込んで、腹痛を癒してやつた日本人が、崇められた話をした。

翌日新宿から、京王電車に乗つて、布施延雄を襲撃した。

畑の中の新しい平家だつた。

十一時の陽が雪に反射して居た。雨戸を閉め切つてゐる。

何度か呼んでから辻潤が、

『本物のキチガヒを連れて來たよ』と言つた。

座敷に布団を被ぶつて、市橋善之助と二人でねてゐた。

『ヤー何日來たの』

『エライコツチヤ』

大きい疣が、善之助の眉間に得る所あるらしくあるのである。

布施は或る社長の娘と結婚して同棲してゐないのである。